

【金沢・釜利谷】

中世、釜利谷の領主・畠山重忠は、本拠の秩父金沢村から職人
を移住、武具などを製作させたことから地名となったとの説あり。
ふるくは「カネサリ」。鎌倉幕府の武器庫としてしられる。「カマリヤ」
の「カマリ」とは「屈(カガ)まる」の意味。蒲里谷とも。

【泥亀 (テイキ)】

江戸中期、湯島聖堂儒官、永島祐伯(スケル 号・泥亀)がその子と
共に寛文8年(1668)に新田開拓を行ったことに因む。

【宮川】

釜利谷夏山団地の釜利谷遊水池に源を発し、丘陵地帯を東に
向かい、途中で左右の支川と合流、さらに低平地帯で谷津川と
合流、平潟湾に注ぐ。延長2.04km。二級河川。

【手子神社】

文明5年(1473)に、釜利谷の領主・伊丹左京亮が、瀬戸神社の分
霊を受け釜利谷の総鎮守として祀ったのが起源といわれる。「手
子」とは瀬戸神社に対する若宮とか姫という意味があり、祭神は
大山祇神、木花咲耶姫。石段を上った社殿のすぐ左側に石窟が
あり、小泉山竹生島弁財天を祀る。宇賀福神という人面蛇体の祭
神。鎌倉「銭洗い弁天」のご神体も、宇賀福神。

【小川アメニティ・せせらぎ緑道】

小川アメニティ： 川の源流の近くで、自然の景観が残されて
いる場所を、水が溢れないような対策を行い、周辺環境との調和
を配慮した整備事業。釜利谷町小川アメニティは、団地に隣
接する水路を、親水性あふれるプロムナードとして整備。

せせらぎ緑道： 市街地で比較的幅の広い水路で、水害
の心配のない場所では、せせらぎを復活再生し、緑道を整備。
宮川せせらぎ緑道は、住宅街と笹下釜利谷道路の間の、緑豊か
なせせらぎ緑道。

【金沢自然公園】

周囲を自然観察の森・氷取沢市民の森など横浜市最大級の緑
に囲まれた約60万m²の広大な敷地を有する自然公園。園内は
“動物園エリア”と“植物区エリア”に分かれ、四季の移ろいを感じ
ながら、動物や昆虫、草花を観察することができる。